kusunoki
市立四日市病院ニュース

くすのき

Vol.15

発行　平成24年3月26日

市立四日市病院くすのき編集委員会

http://www.city.yokkaichi.mie.jp/hospital

皮膚・排泄ケア認定看護師の活動紹介

皮膚・排泄ケア認定看護師　森　美穂子

◆皮膚・排泄ケア認定看護師

皮膚・排泄ケア認定看護師は、皮膚を一つの臓器として捉え、皮膚の健康を維持、増進させる予防的スキンケアと皮膚の健康を損なった皮膚障害や褥瘡（床ずれ）などに対して自然治癒を促す創傷ケアにおいて専門的な知識と技術を用いて看護を提供させていただきます。

またストーマ（人工肛門や人工膀胱）を造設された患者さんへのケア、排泄に伴って生じる問題に関するケアにおいても専門的な知識・技術を用いて看護を提供させていただきます。

◆予防的スキンケア

医療現場では疾患自体あるいは医療行為から患者さんにはさまざまな皮膚障害が発生します。

皮膚障害は予防が第一ですが誰でも同じ方法でケアを行うわけではありません。

皮膚の老化や未熟性、下痢の持続性、全身状態、治療の影響などに伴い皮膚は脆弱してきます。これらの状況を把握したうえで個々の患者さんに見合った予防的スキンケア方法を実践していく必要があります。

スキンケアの目的は皮膚に影響を与える刺激を取り除いて皮膚を守り、皮膚障害を予防・改善させる環境を整えることです。そのためには皮膚を清潔に維持し保護することが必要です。

◆皮膚の清潔

脆弱な皮膚に対する清潔方法は

石鹸を十分に泡立てた厚みのある泡で洗浄します。

厚みのある泡は軽くなでる際にクッションの役割を果たし、皮膚への直接的な機械的刺激を避ける事ができます。この原理を利用して脆弱な皮膚に対して皮膚にダメージを与えず効果的に汚れを落とす方法として、十分な洗浄効果のある泡をのせ軽くなでたあと、洗い流す方法を推奨します。

石鹸を泡立て、
洗浄部位に泡を
広げてのせる。

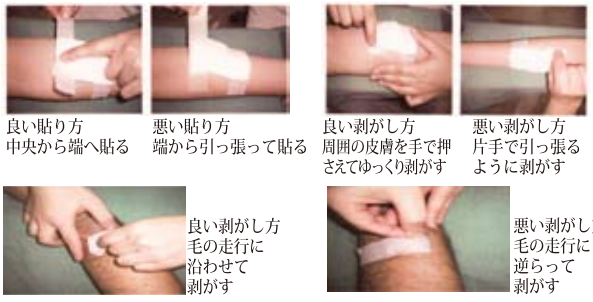
◆皮膚の保護とは

私たち看護師は常に患者さんのQOL（生活の質）を考えてケアを実践していく必要があります。

例えば絆創膏一つ取っても日常の生活を行っていく上で、できるだけ支障の少ない製品を選択する事が原則です。

高齢者の患者さんには剥がす時に刺激の少ない粘着力の弱い材質のものを選び、痛みの少ない剥がし方の工夫を考えます。

テープ貼付部位の皮膚の保護



良い貼り方
中央から端へ貼る

悪い貼り方
端から引っ張って貼る

良い剥がし方
周囲の皮膚を手で押さえてゆっくり剥がす

悪い剥がし方
片手で引っ張るように剥がす

良い剥がし方
毛の走行に沿わせて剥がす

悪い剥がし方
毛の走行に逆らって剥がす

◆最後に

スキンケアや排泄ケアは日常的に行われるものであり、欠くことのできない看護の基本的な部分であると考えます。

専門的なケアによって地域の皆さんによりよい生活を過ごしていただけることを常に願い、医師や看護師そしてさまざまな医療従事者と協力し活動していきます。

市立四日市病院の増改築について

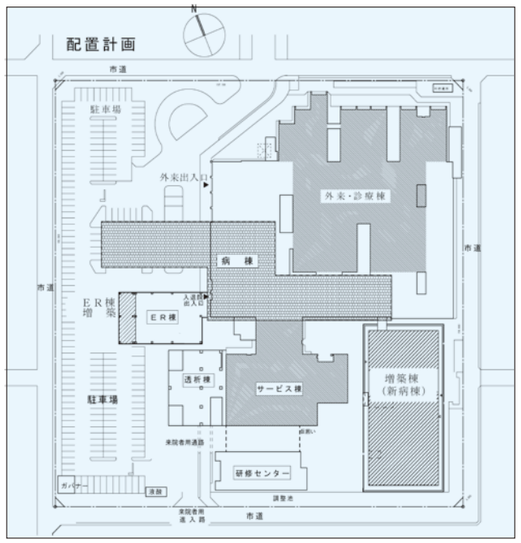
増築棟が完成します

病棟建設の経緯

市立四日市病院は、昭和53年に現在地へ新築･移転し、以降、北勢二次医療圏で最大規模の568床を有する急性期病院として、地域住民の皆さんの多様な医療需要に365日24時間体制で対応しています。

しかしながら、築後30年を経過し、建物や設備の老朽化への対応と療養環境の改善、６人床病室の解消及び個室の増加が求められていました。

このような状況を踏まえ、平成22年４月から、病棟増築・既設改修工事に着手し、平成25年度内の完成を目指して、現在、工事を進めています。



工事の状況

現在までに、救命救急センター（ＥＲ）の増築、外来診察室等の改修を終え、新しい環境で診療を行っています。増築棟については、現在、足場等の撤去が終わり、全容が望める状況となっています。増築棟が完成後、平成24年5月には一部の病棟などが引っ越し、供用を開始する予定です。

本工事では、増築棟の５階から８階を病室（４人床室及び個室）とし、1階に最新設備を整えたＭＲＩ室、２階に厨房及び中央材料室等、３階には手術室（12室）、６階に分娩室、７階に新生児集中治療室（ＮＩＣＵ）を配置します。

また、地震災害時等において重要な病院機能が維持できるよう増築棟については、免震構造の建築物としています。

増築棟の完成後、引き続き、既設棟の全面改修に着手し、療養環境の改善を図るため、全体の病床数（568床）を変えずに既存の６人床病室の４人床化や個室化、及びトイレ等の設備の改修を実施し、増築棟と同等の改善を図ります。

今後、既設棟の改修工事については患者さんが入院しながらの工事となります。騒音・振動を出さずに工事を進めることはできませんが、細心の注意を払いながら工事を進めていきます。また、工事に伴う仮設事務所の建設による院内駐車場の使用制限や通路等の制限など、患者の皆さんには大変ご迷惑をお掛けすることとなりますが、療養環境の改善のために避けることのできない工事となりますので、何卒ご理解をお願いします。

くすのきVol.15　平成24年３月26日

増築棟の各室の案内

１．全体外観

既設棟の南東側に増築棟を増築。免震構造、地上８階建ての新病棟で、震災等の災害時にも病院機能の維持ができる構造となっています。

２．中央材料室

手術器材や診療材料の滅菌処理や材料の手配を一手にこの場所で行います。

３．給食用厨房

入院患者用の給食の調理を衛生的な環境のもと提供いたします。

４．手術室

多様化する手術に対応するため、従前の９室から12室に増設し、ハイブリッド手術室ほか、最新の手術に対応できる手術室も整備します。

手術室

５．新生児集中治療室（ＮＩＣＵ）

低出生体重児(未熟児)や、先天性の病気を持った重症新生児に対し、呼吸や循環機能の管理といった専門医療を24時間体制で提供します。

ＮＩＣＵ

６．病室（４人床）

従前の６人床室を解消し、４人床室とし、療養環境の改善を目指します。

４人床室

７．病室（個室）

個室数を増加し、個室内の設備も充実します。

完成予想図

診察室 シリーズ…⑭

遠視の人は目が“良い”のか？

眼科部長　兼子 裕規

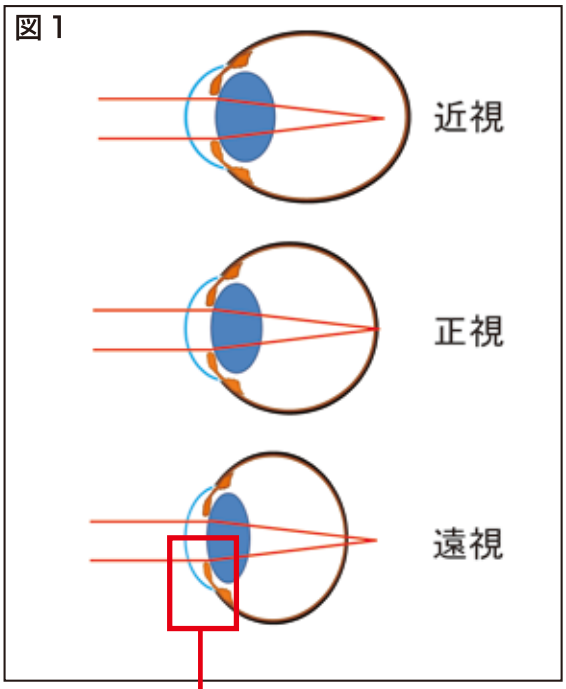
１年ほど前になりますが、本誌において眼科疾患の中で特に近視の方々に発症しやすい疾患について説明させてもらい、その際に「機会があったら遠視の人に発症しやすい病気を・・・」と書き残しました。そして今回リクエストが有りましたので、遠視のメカニズムと起こりやすい疾患について報告します。

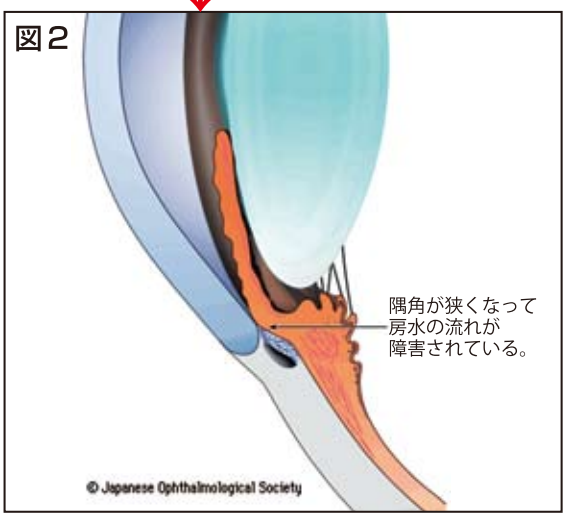
さて、前回同様遠視のメカニズムから入りましょう。遠視の方々は子供のころからメガネ要らずの生活をされてきたので、自分は「眼が良い」と言われることが多いです。しかし残念ながら、「眼が良い」というのは本当に眼が「良い」わけではありません。逆も然りで、近視の人の眼が「悪い」という表現も不適切です。遠視か近視か、これは主に眼の大きさ（眼軸長）によって決まります。眼軸長の平均は約24mm(2.4センチ)です。眼軸長が大きいと近視・小さいと遠視の眼になる傾向が有ります（図１）。もちろん諸説ありますが、子供のころに暗い部屋で本を読んでも基本的には成人してからの近視の度合いに影響ないと考えられています。眼軸長が小さく、焦点が網膜より後方に結ぶ時が遠視です。遠視の方は、自分の眼のピントが「遠い」と思われていますが、厳密にいえば、遠視の眼にピントはありません。そのため眼の中にある調節にかかわる筋肉を一日中使ってピントを合わせています。この筋肉が疲労した状態が「眼精疲労」、また年齢とともに衰えると「老眼」となります。

また遠視（＝老眼）の眼は単に疲れやすいだけでなく、実は恐ろしい病気が隠れていることがあります。その病気は眼が小さめだからこそ起きやすい疾患です。さて、どんな病気が起きやすいのでしょうか？

簡単な例は「閉塞隅角緑内障」です。人間の眼の中は絶えず水が循環しています。この眼の中の水（房水）による眼球の内圧が「眼圧」です。遠視の小さな眼では、眼内のスペースが狭いために房水の流れが滞りやすく、時に眼圧が高くなります（図２）。その中で慢性的に眼圧が高い状態が「慢性閉塞隅角緑内障」です。残念なことに緑内障は現在日本人の失明原因の第１位です。またこの房水の流れが急に滞り、ある時突然眼圧が上昇する状態を「急性緑内障発作」といい、視機能（視力や視野）が急速に失われます。この疾患も遠視の人に偏っておこりやすい疾患といえます。

今回述べた内容に興味を持たれた方は、約一年前に本誌に載せた近視に関する記事も是非読んでみてください。近視・遠視の方々には、それぞれの眼の構造的特徴から起こりやすい疾患と起こりにくい疾患があります。日ごろ暗い部屋でコソコソ仕事をしている我々眼科医も、実は結構頭を使って仕事をしているんですよ。





最新機器紹介

中部地区初のハイブリッド手術室の導入

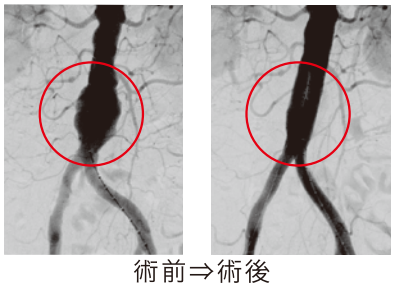
現在、市立四日市病院では新病棟の増築を行っています。手術室も一新し、現在の９室から12室となります。その１室には、県下はもちろんのこと、中部地区初となるハイブリッド手術室を導入します。

ハイブリッド手術室とは、手術室に天井吊り下げ型の血管造影装置を統合させたものです。通常は、カテーテル検査室と手術室は全く別の場所にあり、カテーテルを用いた手術は放射線部のカテーテル検査室で行いますが、一般の外科手術は手術部で行っています。両者の機能をひとつにまとめた手術室がハイブリッド手術室です。現在、手術中に血管造影が必要な手技はカテーテル検査室で行っていますが、手術室特有の清潔区でないことや、不測の出来事に対し超緊急に対応できないなどの欠点があります。これらはすべてハイブリッド手術室では解消できます。

今後はハイブリッド手術室で最新の医療技術にも対応することができ、近年、発展の著しい大動脈瘤に対するカテーテルを用いた治療（ステントグラフト手術）も無菌的な環境で行うことができ、安全性が大きく向上します。この環境下において、カテーテル手技を用いたすべての内臓動脈疾患、末梢動脈疾患をハイブリッド手術室で行うことができるようになります。

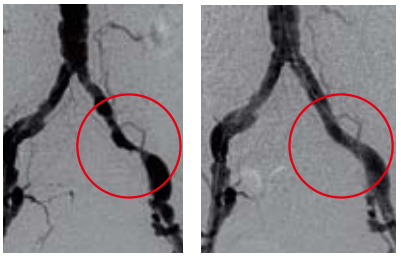
外科医師　服部　圭祐

①腹部大動脈瘤ステントグラフト内挿術



術前⇒術後
中央の瘤（こぶ）が消失している

②下肢血管拡張術



術前⇒術後

③腎動脈拡張術

術前⇒術後

狭くなった血管が手術により拡がっている

ハイブリッド手術室

写真提供：㈱フィリップスエレクトロニクスジャパン

お薬の話…13

薬と副作用について

「鼻炎の薬を飲むと鼻水は止まるが、眠くなる」ということがあります。薬の成分が鼻炎の症状の改善にも働きますが、脳の神経にも働き、人によっては眠気が出てくることがあるのです。

このように、目的以外の好ましくない作用は「副作用」と呼ばれています。

さまざまな副作用

◆鎮痛剤…胃腸障害、腎臓機能の低下、肝臓機能の低下、アレルギーなど

◆抗アレルギー剤…眠気、発疹など

◆抗生物質…胃腸障害、腎臓機能の低下、アレルギーなど

薬の副作用はこれ以外にも色々な症状がありますが、すべての方に出るわけではありませんし、個人差もあります。また、薬の副作用には、血液検査などでしか分からないものもありますので、医師の指示のもと定期的に検査を受けてください。もし薬を飲んで何か異変を感じたり、心配なことがありましたら、かかりつけの医師や薬剤師に相談しましょう。特に、症状が強く現れたらすぐ病院にかかりましょう。

症状が分かりやすい副作用について

●皮疹（薬疹）

薬を飲んでしばらくすると皮膚にぶつぶつや赤みがでることがあります。薬を飲んでから薬疹がでるまで、数分の場合から３～４日の場合までさまざまです。

●尿への影響（色、におい、量など）

ビタミン剤を飲んで尿の色が濃い黄色になるように、薬の影響が尿や便に現れることがあります。しかし、薬を飲んで、尿の色が特に濃くなったり、褐色や茶色になったり、尿の量が減ってしまったなどという場合には、肝臓や腎臓への副作用も考えられます。

●ショック症状

「お蕎麦のアレルギーで意識を失ったり、呼吸困難で救急車で運ばれた」という話を聞いたことはありませんか？このような重症なアレルギー反応が発生する確率は非常に少ないですが、重大な症状です。これは、アナフィラキシー様症状（蕁麻疹や呼吸困難など）といい、食べ物や薬に対するアレルギーが強く出てしまうために起こります。薬を飲んで、苦しくなったり、皮疹やかゆみなどが出たら、すぐに病院へ行くか、救急車を呼んでください。

また、副作用が出た薬の名前は必ず覚えておきましょう。名前が覚えられない場合は薬の名前をおくすり手帳か、カードに書いて、いつも持ち歩く財布や手帳に入れておくと便利です。そして、いつもと違う医療機関を受診する際には、必ず伝えましょう。

医薬品副作用被害救済制度とは？

医薬品等の副作用などにより健康被害を受けられた方を救済する『医薬品副作用被害救済制度』という制度があります。

病院・診療所で投薬された医薬品、薬局などで購入した医薬品を適正に使用したにもかかわらず発生した副作用による入院が必要な程度の疾病や障害などの健康被害について救済給付を行います。健康被害が入院を要する程度でなかった場合や、抗がん剤などの対象除外医薬品による健康被害の場合など、救済の対象とならない場合もありますので詳しくは下記の救済制度ホームページ等で確認してください。

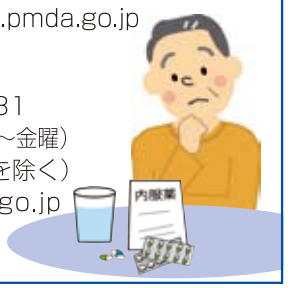
（薬局）

■救済制度についての詳細は

ホームページ　http://www.pmda.go.jp

■救済制度相談窓口

電話番号　0120-149-931
受付時間　9時～17時（月曜～金曜）
（祝日･年末年始を除く）
E-mail　kyufu@pmda.go.jp



第２回　市立四日市病院市民公開講座報告

テーマ　乳がん治療の最前線

【日時】**平成 23 年 12 月３日(土)**
午後２時～４時

【場所】**じばさん三重　６階ホール**

【内容】わが国では乳がんになる人が年々増加しています。早期発見のためのアドバイス、実際に乳がんになった場合の診断、治療方法、乳房切除した後の乳房再建術について専門医からの講演の後、質疑応答も行われました。

【座長】中央手術部長　蜂須賀　丈博

【講師】
○市立四日市病院外科　柴田　雅央（診断）
○ひなが胃腸内科･乳腺外科　久野　泰（治療）
○市立四日市病院形成外科　武石　明精（乳房再建）

今回は乳がんをテーマとし、約 180 名の参加がありました。

乳がんには現在日本人女性の内 20 人に１人が発症しています。40 ～ 50 代の発症が最も多いですが、年齢に関係なく誰でも発症する可能性があります。生活習慣、特に喫煙（受動喫煙も含む）やアルコールによる影響は多大です。検診で異常が無くても月 1 回の自己検診を心がけ、疑わしい症状があったり検診で指摘を受けた場合は、速やかに受診をすれば早期発見、早期治療につながります。乳がんの治療薬は新しいものが次々と出てきており、外来での１回の抗がん剤治療に要する時間も短くなっています。

乳房再建の方法は大きく分けて患者さん自身の背中やお腹の皮膚や脂肪を移植する自家組織移植、シリコンを使用するインプラントの2種類があります。患者さんの健康状態が良く、手術ができる状態ならば年齢に関係なく手術は可能です。乳房切除した場合、患者さんは患部を毎日目にすることになり、それが心の負担になる場合もあります。再建を行うことで前向きにがん治療に取り組むことができるようになった方もいるそうです。

治療を行っていく上で大切なのは家族の支援です。長い期間病気と付き合うことになるので家族の理解が不可欠です。分からないことは担当医や看護師へ確認し、あいまいな情報に惑わされないようにすることも大切です。

今後も同様の公開講座を開催する予定です。がんについての正しい情報を得るためにも皆さんにご参加いただければと思います。

ご参加いただいた皆さん、ありがとうございました。
（地域連携･医療相談センター『サルビア』　長戸　美知枝）

病院機能評価の認定を更新

平成23年11月４日に当院は病院機能評価の認定病院として認定されました。この病院機能評価とは、病院が組織的に医療を提供するための基本的な活動（機能）を適切に実施しているかどうかを、公益財団法人日本医療機能評価機構が評価するものです。今回の審査の結果、当院は一定の水準を満たしているとして認定されました。すなわち当院が、地域に根ざし、安心･安全、信頼と納得の得られる医療サービスを提供すべく、常日頃努力している病院であると認められたものと言えます。

なお、病院機能評価の認定期間は５年間で、当院は平成13年に最初の認定を受けており、今回で２回目の更新となりました。

病院機能評価認定証

医療と福祉
“ほっと”
ニュース

当院では

～地域の医療機関とのスムーズな連携に向けて～

セミオープンシステムを開始しました！

セミオープンシステムとは

地域の皆さんが、安心して初期医療から高度医療までを、住み慣れた地域で受けることができるよう、市立四日市病院の病床を利用し、『**かかりつけ医**』と『**当院医師**』が共同して入院治療を行うものです。

◎開放型病院共同指導

セミオープンシステムを利用するときに、かかりつけ医が来院し、当院の医師と共同で治療や指導を行います。

◎退院時共同指導

退院前にかかりつけ医が来院し、退院後の治療や療養について、当院医師や看護師、必要に応じ医療ソーシャルワーカー、薬剤師等の院内職員、地域の訪問看護師・ケアマネージャーも含め、検討を行います。

患者さんにとっての利点は

信頼している『かかりつけ医』が、入院中も病院医師と共同で治療にあたりますので、安心して入院生活を送ることができます。

また、退院後も入院中の状況を理解している『かかりつけ医』によって、継続した治療を受けることができます。

普段から『かかりつけ医』を持って、**二人主治医制**で安心して治療を受けられるようにしましょう!!

サルビアでは

専門の医療ソーシャルワーカーが、病気によっておこる生活上の心配事について、随時ご相談をお受けしています。

- 退院後の療養や介護に関すること
- 在宅医や訪問看護の紹介
- リハビリ病院や療養型病院など、他の医療機関や施設の紹介
- 医療費や生活費などの経済的問題　など

どうぞお気軽にご相談ください！！

お問い合わせは…

地域連携・医療相談センター「サルビア」

相談時間：月～金曜日／午前９時～午後５時（予約制）

TEL059-354-1111（内線 5185）
FAX059-354-2214

●編集・発行　市立四日市病院 くすのき編集委員会　〒510−8567 四日市市芝田二丁目2番37号　TEL(059)354-1111㈹
●夜間・休日 FAX(059)353-7337　●事務局 FAX(059)352-1565